

2015 年度 E.FORUM「全国スクールリーダー育成研修」 「学校教育研究フェスタ」実施の様子

京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター E.FORUM では、2015 年 8 月 22 日（土）・23 日（日）に、人間・環境学研究科大講義室において「全国スクールリーダー育成研修」を開催しました。2 日間を通して、東は宮城県から西は長崎県まで、延べ 174 名（1 日目 93 名、2 日目 81 名）の方にご参加いただき、盛況のうちに終えることができました。

<1 日目> 8 月 22 日（土）

●オープニング&自己紹介

研修運営担当の西岡加名恵准教授から本研修の概要説明をしました。参加者同士の自己紹介タイムを設け、全国各地から来られた方々の熱気が溢れる中でスタートしました。



●講義：「グローバル化する教育と留学概念の転換」 担当：杉本 均

「留学」とは何か？ これまでの「留学」の定義を検討した上で、大きく転換しつつある近年の留学概念について解説いただきました。留学しない「留学」、つまり外国に渡航せずとも、その国の大学の資格や学位を取得することができるという新しい留学のあり方（トランスナショナル教育）について、その現状と課題を考えました。



<参加者の声>

- ・「留学しない留学」、「トランスナショナル教育」、初めて耳にする言葉で新鮮でした。教育サービスがひとつの産業として成立しているのは、改めて考えるとすごいことだと思います。経済用語を借りると教育のアウトソーシング化とでも換言できるのかなと感じました。しかし、先生自身も言及されていたように、メリットばかりではないと考えます。日本において、トランスナショナル教育があまり普及しなかったのは、「現地に行っこそ」、「異文化に触れてこそ」という日本人の国民性も関係しているのではないのでしょうか。「海外で学ぶこと」と「海外を観光すること」を兼ねている人が日本人には多いように思います。
- ・トランスナショナル教育が進展している状況や次のシステムについて詳しく理解することができた。その中で、自国の教育がどうあるべきなのかをしっかりと考えなければならないと思った（質も価値も保障される留学のあり方が大切）。特に、島国ならではの感覚が当たり前になっていることにも気づくことができた。
- ・教育サービスの輸出（入）によってまさに教育格差が生じていくことに強い興味と危機感をもった。そして、日本の大学はどうあるべきなのか、中高からはどのようなアプローチが可能なのか気になった（あと、留学後の成果やフィードバックについても考えてみたい）。

●講義：「児童期・青年期の発達と心の理解」 担当：大山 泰宏

児童期から青年期の子どもたちに生じるさまざまな発達の・心理的变化をたどり、それぞれの時期に生じがちな課題や問題を解説いただきました。また、それらに対する支援やサポートのあり方についても検討しました。特にこれまで見逃されがちだった「前思春期」に着目し、この時期の子どもの内的変化を繊細に捉えるための見方を学びました。



<参加者の声>

- ・日々、様々な生徒と向き合う中で、「心」を理解することの難しさ、またやり甲斐を感じています。特に最近、話題になっている「発達障害」の傾向が見られる生徒に対して「あの子は発達障害だから…」という見方をするのではなく、もっと色々な要因や背景を考えなくてはならない、という先生のご意見にハッとさせられました。経験や知識を重ねるについて、わかっているような気になっている自分を戒めて、純粋な目で生徒の心を見つめていきたいと思います。
- ・普段、学校現場で直面している課題、興味、関心を持って聞くことができました。子どもの発達を理解することからスタートすることの重要性を再認識できました。具体的な対処方法なども教えていただき、参考になりました。
- ・教育と医療の両面から現場では様々な生徒に対しては、教育の側に立ってのお話は参考になりました。前思春期の大切さ、現場では実感しています。ぜひ、[研究的な知見を]広げていってほしいです。

●シンポジウム&ワークショップ：「『E.FORUM スタンダード』を再検討する」

担当：八田幸恵（大阪教育大学、国語科）、鋒山泰弘（追手門学院大学、社会科）、
石井英真（教育学研究科、算数・数学科）、
大貫守（教育学研究科院生・日本学術振興会特別研究員、理科）、
小山英恵（鳴門教育大学、音楽科／美術科）、
北原琢也（教育学部非常勤講師、保健体育科／技術・家庭科）、
赤沢真世（大阪成蹊大学、英語科）

前半のシンポジウムでは、2014年に作成した「E.FORUM スタンダード(第1次案)」の改訂に向けて、各教科担当の講師から提案がなされました。後半のワークショップでは、参加者は教科ごとのグループに分かれて、さらに議論を深めました。



<参加者の声>

- ・現在、パフォーマンス評価の研究をしているので、大変参考になりました。一年間研究を進めて、つくづく逆向き設計の大切さを感じております。このスタンダードが全国の先生方の取り組みのきっかけとなり、指導の改善が図られることを願っております。
- ・各先生方の取り組みの真剣さと悩みが双方よくわかる内容であった。各教科でのスタンダードを各教科内だけで検討することも大事だが、それぞれのスタンダードの融和(重なり)をクロスオーバーして考えていくことも考え

られそう。

- ・他教科でどのように組み立てられているのかが少し見えてきたと思います。自分の教科でも生かせる部分は沢山あると思いました。理科ではあまり書くことを追求する場面が少なかったが、思考を深めていくためには読み・書く・聞く力はやはり重要でした。ぜひ国語を勉強したいと思います。英語科が CAN-DO リストを一生懸命作っていたのですが、なぜか分かりました。これも嬉しかったです。

<2日目> 8月23日(日)

●オープニング&自己紹介タイム

西岡加名恵准教授の司会のもと、オープニング&自己紹介タイムが始まりました。新たな参加者を交え、前日同様に自己紹介を行いました。



●講演「知力を測る——多重知能理論への道」 担当：子安 増生

はじめに、「教育効果の検証」の問題と知能研究の歴史について解説したのち、知能研究が現在どのように進展しているかについて学びました。特にアメリカの心理学者であるハワード・ガードナーが提唱した「多重知能理論」について検討し、教育の現場で「多重知能理論」をどのように使っていけばよいかを考えました。



<参加者の声>

- ・知能とは何か、何を測るのかにより、測るものがかわってくる。学校では、全人教育が必要であることなどを子安先生の講義で再確認しました。全人教育を行うには、教師自身の知能を高める必要があると思います。自分に不足している知能は何かを明確にし、研修を継続していかなければいけないと思いました。
- ・知力は一面的に捉えられるものではないというようなことはなんとなくは理解していたものの、その実際について理論的背景を順を追いながら、説明していただくことができ、もやもやしていたものが言語化されたような腑に落ちる感覚を味わわせていただきました。中でもキャッテルの提唱している結晶性知能やゴールマンの提唱しているEQの存在は、人間形成において、大きな意味を持つと思うのですが、その“知力”のあるべき姿、どうすればそれを高めていくことができるのかという方法論について、さらに知りたいと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・知能について歴史と最新情報を教えていただき、頭の中が整理できて良かったです。現職5年目なので、10年ルールに従って、教育の専門家となるため、あと5年頑張りたいです。「人は誰もが長所を持つ」ということを多重知能理論(モジュールの考え方)から納得することができました。

●ワークショップ「同僚・生徒とのコミュニケーションの取り方」 担当：平田 オリザ

E.FORUM 創設 10 周年記念企画として、劇作家・演出家である平田オリザ教授を講師にお招きしました。はじめに参加者も交えて、演劇で使われるワークショップの手法を用いて、コミュニケーションとは何かを体感するゲームを体験しました。その後、改めて現代社会で求められる「コミュニケーション能力」とは何か、またその力をこれからの子どもたちにどのように身につけさせていけばよいかをお話いただきました。



<参加者の声>

- “コミュニケーション能力”というものをどう捉えていくべきか、教育の場でどのように考えていくべきかということについて、とても明快にお答えいただいた清々しさがありました。ダブルバインドが求められることが避けられないこの社会において、生きづらさを意識にのせながらも、しなやかに対応していける力というのは、とても重要であると感じました。今日のお話を聞き、私自身、皆が抱えている難しさはあるけれど、その中で他者と関わるマナーを身につけられる子どもたちを育てていくためにできることは何かを考えてみたいと思いました。
- ワークショップから始まって、演劇とコミュニケーション能力、学びのモチベーションのつながりを考えさせられた内容でした。ありがとうございます。「対話力」がいかに必要な力かということが身に染みしました。一元的な「コミュニケーション能力」の捉え方ではない、わかりあえないからこそそのコミュニケーションの取り方について考えさせられました。
- グローバルコミュニケーションスキルと日本型のコミュニケーションのダブルバインドを受け入れて、したたかに生きていくような子どもを育てようという言葉に、先生の本音からの意見を聞けて大変ありがたい思いをした。良い子を演じられて、それを楽しめるようなしなやかさを具体的にどう育てられるか、どうマインドセットをかえられるかをよく考えて授業に盛り込んでいきたい。

●クロージング



子安研究科長より謝辞が述べられ、参加者を代表して渡邊久暢先生に修了証書が手渡されました。最後に、研修評価アンケートにご記入いただき、(2日間とも参加された方には)記念に修了証書をお渡しして終了となりました。

皆様、大変お疲れ様でした！

※ 本研修の動画や配付資料については、京都大学オープン・コースウェア(OCW)のサイトでも公開しています。

◆ E.FORUM2015「全国スクールリーダー育成研修」(2015年8月22-23日)

OCW <https://www.tam2.adm.kyoto-u.ac.jp/ocw/ja/opencourse/118>